

第 224 回 日本経営倫理学会・理念哲学研究部会・例会の議事録

部会長 村山元理

日時 10月30日(月曜) 18:00~20:00

場所 神田 学士会館 305号

参加者 宇佐神、山本、佐藤、古山、井上、辻井、緒賀、新川、大塚、村山

欠席届 市川、望月

発表

井上真由美「日本商人不道德論と高等商業学校の商業道德教育」

(要旨) 官立高等商業学校の道德教育に関しては、東京高商や神戸高商を除いて、十分に分析されていない。そこで官立の三高商(山口高商、小樽高商、長崎高商)における商業道德教育、その重視の背景について研究した。分析の視角として、井上(2015)に従い、商業道德に関わる科目、講演・訓育、寄宿舎などの組織的取り組みの3点から分析した。商業道德教育重視の背景として、明治大正期の日本商人不道德論がある。当時の在来の商人における伝統的な思考習慣という構造的な問題、経済発展段階があり、直ちに矯正することは難しいことが分かった。そのため、未来の商人である実業学生たちへの訓育が重視されたことが一つの理由である。

(質疑応答、コメント) ・文部行政における道德教育の体系との関係は何か。

- ・江戸期以来の賤商意識があり、福沢諭吉(『実業論』)や渋沢栄一(『道德経済合一説』)、高橋義雄も商業啓蒙活動、実業人のステイタス確立を目指した。
- ・ビジネス倫理の教育で、独立型と統合型の2タイプあり。
- ・山口高商卒の著名財界人は? 宇部なら、宇部興産の渡辺祐策がいる。
- ・開港後の国際取引が生まれ中で、貿易立国、商業立国という国策、条約改正問題との関係は。

今後の予定の確認 毎月第4月曜日

11月27日(第4月曜) 企業家ミュージアム

村山 「学生による見和見川商店会活性化案」の紹介

<https://www.facebook.com/miwamigawashotenkai/>

- ・『21世紀の経営倫理』案

以上